

新潟の多様な小売店

フェアトレードが広まるにつれ、そのありかたは多様化していく。店舗や商品、活動は、どのようにその土地に芽吹き、根付いていくのか。新潟県の事例を紹介する。

新潟県のフェアトレードショップ

広大な平野に信濃川が流れる新潟県は人口約二三七万。日本一の米どころである一方、若者の県外への流出に歯止めがかからず、上京率は全国トップとなっている。中心地である新潟市は二〇〇七年に政令指定都市となった。東京からは新幹線で二時間の場所に位置する。

二〇一〇年、新潟県でフェアトレード商品を販売する小売店を調査した石附は、その結果を卒業論文にまとめた。当時、確認できた小売店の数は一店で、県内各地に散在していた。それが現在は、一七店以上に増えている（イオンなどの大手チェーン店をのぞく）。単純に店の数が増えたのではなく、閉店したり縮小する店舗もあった。それでも、あらたにオープンしたりフェアトレード商品の取り扱いを始める店の方がわずかではあるが上回っている。

演歌の隣にフェアトレード

いくつかショップを紹介したい。三条市で一九九二年にオープンした「みずすまし」は、長とから、フェアトレードに関心をもつ。「おしゃれで、オーガニック、世の中に役立つ」商品に惹きつけられ、フェアトレードを前面に打ち出した麗愛を二〇〇九年にオープンさせた。店内の商品のおよそ八割がフェアトレードで、ピープル・ツリーを中心に、衣服、雑貨、食品などを幅広く揃えた。二〇〇九年のシーズンには一〇〇〇枚以上チョコレートが売れたそう。それでも売り上げの主力は化粧品で、金額にすると化粧品が約八割を占めていた。

二〇一三年春、麗愛は自分のあいだフェアトレード部門を休みにすることにした。現在は化粧品や布ナプキン、環境に配慮した洗剤がメインとなっている。しかし、フェアトレードから離れたわけではない。取り扱い化粧品のひとつであるヴェレダはフェアトレードだし、冬になればチョコレートを販売する。店舗を会場に、カレー会、朝食会、ワイン試飲会などフェアトレード商品を使ったイベントも定期的におこなっている。

「ギャラリー菜」は、自然公園のなかに位置する陶芸ギャラリーだ。オーナー夫婦は揃って陶芸家。昔はフェアトレード商品を販売していたが、思うように売れなかった。そこで生協の共同購入のような形態になった。ギャラリーにフェアトレード団体のカタログを置き、常連客が見て、欲しい商品があれば注文票に記入していく。それをオーナー夫婦がまとめて発注するのだ。

無理をしない自然なスタイル

注目したいのは、経営者の多様な価値観とフェ

年農協に勤務した店主の神田さんが、有機栽培の食品や無添加の洗剤を販売し始めて始めたエコロジーショップだ。自然食品をベースに、地域のイベント、環境、障がい者福祉に関する活動拠点となっている。現在は、震災がれきの受け入れに反対する活動で忙しいそう。フェアトレード商品は雑貨を中心に置いてあるが、売れ行きはいまひとつ。

「ナルニア」は新潟市内の商店街にある。CDとフェアトレード商品が半分ずつのスペースを占める店主の丸田さんが実家であるCDショップで販売を始めたのだ。ふたつのスペースにしきりはなく、「演歌の隣にフェアトレードの商品があるのは、日本でもここだけでしょうね」と丸田さんは笑う。

「麗愛」は新潟駅につながる大通りに面した、黄色い外壁のおしゃれなお店だ。店主の内山さんは元々自然化粧品の販売員として働き、新潟駅前に自分の店をもっていた。ヨガをするようになったとき、ウエアとして選んだのが、たまたまファッションやチョコレートなどのフェアトレード専門ブランドであるピープル・ツリーの商品だったこ

アトレード商品が自然に結びついていることである。自然食品を買いに行った先でフェアトレードを知るCDを、化粧品を、かわいい雑貨を求めていったらフェアトレードがそこにあった。「国際協力」とアピールするよりも、消費者の生活にフェアトレード商品が自然に入り込んでいくスタイルである。

大都市とは違い、フェアトレードの専門店が売り上げを伸ばしていくのは、今の新潟では難しい。それでも売り上げが伸びなくとも無理をせず、アクセントとしてフェアトレード商品を置き、息長く販売していく。このようなスタイルは、じつは地方でフェアトレードを広めていくのに有効なのかもしれない。

新潟県のあらたな動き

お店での販売から、フェアトレードの場はさらに広がっていく。新潟でのフェアトレード普及を目的としたサークル「カフェ・フェアトレード新潟」（カフェア）は、麗愛を拠点に活動している。さらに、カフェアのメンバーである佐藤さんと岡田さんが「にいがたフェアトレード推進委員会」を二〇一三年設立した。新潟フェアトレードマップの制作、HPでの情報発信、ファッションショーやイベント開催など精力的に活動中だ。昨年三月に熊本でおこなわれたフェアトレードタウン国際会議には、知り合いの新潟市議会議員と参加した。メンバーは多忙な仕事のかたわら活動を続け、将来的には新潟市のフェアトレードタウン化を目指す。小売店、NPO、学生サークルなど県内のネットワークの形成と強化を促進する役割を果たすことが期待されている。



県内の雑貨やハンドメイドが集まった「虹いろマルシェ」に出店（2012年9月）



カフェイベント紅茶講座。おいしい紅茶の入れ方を、講師を招いてフェアトレードティーで実践（2014年6月）



カフェイベントカレー会。20人以上集まってカレーやラッシーを手作り（2012年7月）



ギャラリー菜。陶芸作品に触れながらフェアトレードコーヒーを飲むことができる



ナルニア。店内奥のポスターより左にはCDが並び、右側のカバンなど雑貨はフェアトレード